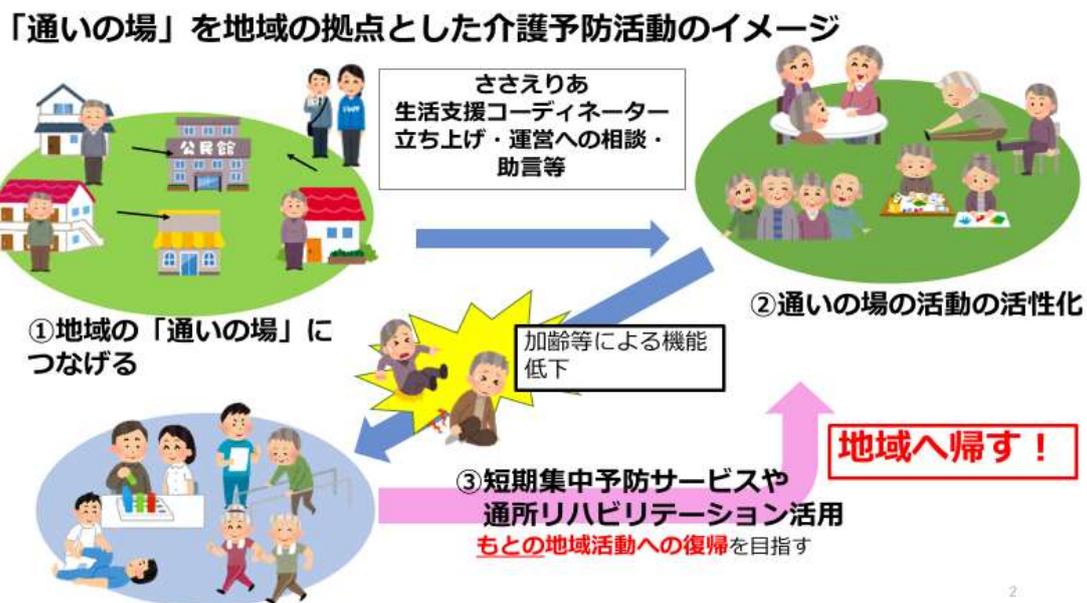


(2) 南区における今年度の取組

令和 2 年 4 月に策定した南区地域包括ケアシステム推進方針・アクションプランの遂行が新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度と同様に、当初の計画どおり行えていないが、推進方針の取組 1「介護予防」及び取組 2「医療介護連携」について、コロナ禍でも行える活動を実施。

①介護予防分野における実務者会議

令和 2 年度及び 3 年度にオンライン会議として開催した介護予防分野における実務者会議は、引き続き実施に向けて検討中。(熊本地域リハビリテーション広域支援センター連絡会と合同での開催を想定)



②医療介護連携分野における実務者会議

令和 2 年 11 月に、南区として初めての医療介護分野における「第 2.5 層実務者会議」を開催し、令和 3 年度末までに 9 回、今年度は 9 月末までに 4 回の合計 13 回を開催した。

【構成団体等】

- ・急性期病院、回復期病院、在宅医療クリニック、訪問看護ステーション、介護施設、居宅介護支援事業所、薬局、終末期緩和ケア等各関係者
- ・各地域包括支援センター職員

(令和4年8月1日 現在)

組織分類	所属機関	人数
急性期病院	済生会熊本病院	1名
回復期病院	にしくまもと病院	1名
	あきた病院	2名
	桜十字病院	1名
	平成とうや病院	1名
在宅医療	ひまわり在宅クリニック	1名
老人保健施設	介護保健施設 田迎ケアセンター	1名
終末期緩和ケア	ファーマダイワ介護サービスセンター	1名
薬 剤	南熊本調剤薬局	1名
訪問看護	訪問看護ステーションいきいきらいふ	1名
熊本地域リハビリテーション広域支援センター	にしくまもと病院	1名
ケアマネージャー	居宅介護支援事業所 青い鳥	1名
地域包括支援センター	南圏域 地域包括支援センター	7名
行 政	医療政策課	1名
計		21名

※令和4年8月、地域包支援センターから1名参加。(追加)

※第2.5層実務者会議(みなまる会議：ニーズ調査チーム・支援者人材育成チーム・人生会議チーム)で検討

【開催状況】

□R2年度：2回(11月10日、3月16日)

□R3年度：7回(5月25日、7月27日、9月28日、10月28日、12月16日、1月25日、3月16日)

□R4年度：4回(5月24日、7月26日、8月30日、9月27日)

※今後、年度内に4回(R4年10月、11月、R5年1月、3月)開催を予定。

(今年度の参加者数)

開催日	5月24日	7月26日	8月30日	9月27日	合計
参加者数	16名	8名	16名	17名	57名

令和4年度 医療介護連携分野実務者会議（みなまる会議）の様子



【会議内容】

<令和2年度>

- ・ 取組2「医療と介護のシステムの区民への啓発」について意見交換。
- ・ 専門職ではない区民の方に対し、「何を伝えるか?」、「どこまで伝えるか?」、「どのようにして伝えるか?」を念頭に置いた「区民に分かりやすい啓発」を目指し、医療、介護、在宅医療・介護の各専門グループ（退院時支援グループ、在宅療養グループ、家族支援グループの3グループ形成）で情報収集や検討を重ね、啓発ツールの作成に向けた取組を開始。

<令和3年度>

- ・ 3グループそれぞれの啓発内容や方法を検討し、リーフレットによる啓発（退院時支援グループ、在宅療養グループ）と寸劇による啓発（家族支援グループ）を行うこととした。
- ・ 区民に対し、何を伝えるかについて、メンバーで共有。

区民に伝えること

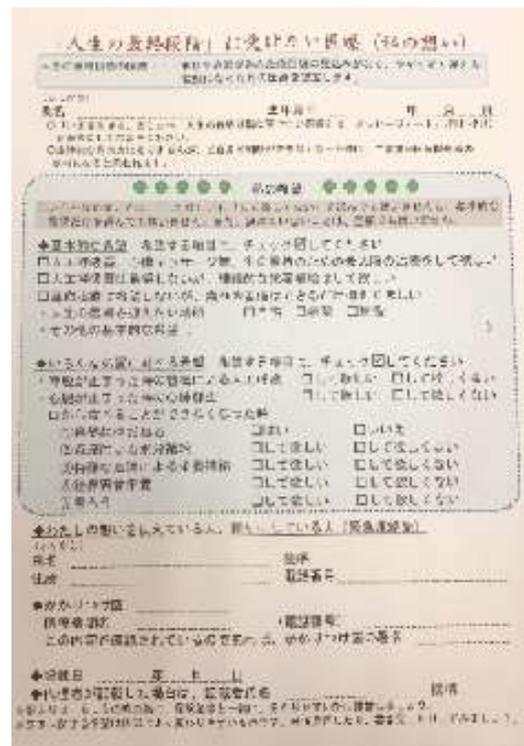
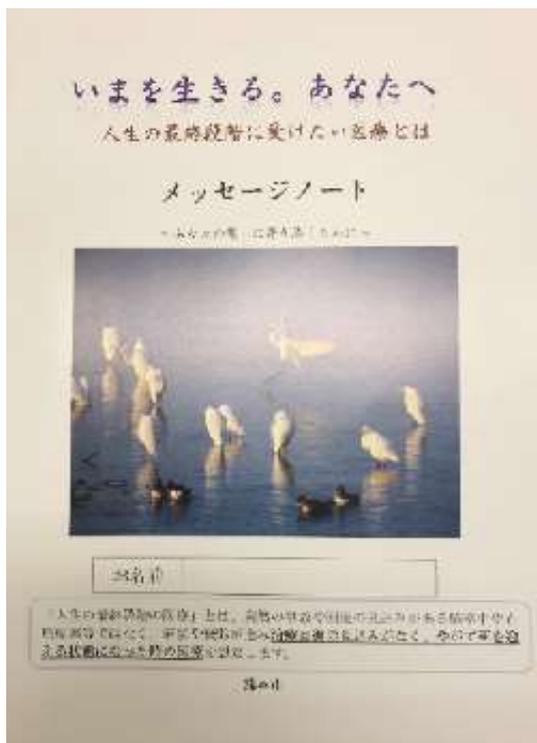
① ご自身の「人生の最期の迎え方」について見つめてもらう

(コロナ禍だからこそその大切さ)

② ご自身の治療の希望や最後の迎え方に対する想いを家族と話し合ってもらおう

③ 自分の意志を書き残してもらおう

(熊本市で作成している「メッセージノート」の紹介)



<令和4年度>

(ニーズ調査チーム)

- 区内の医療介護従事者が、人生会議・終末期医療や看取り等に対して、どのような意向を持っているのか(どのように思い、どのように動いているのか)を把握するため、アンケートの実施に向けて検討を行っている。

(支援者人材育成チーム)

- 在宅を看取るネットワークづくりとして、南区内の多職種の方を対象に情報を共有するため、研修会を開催することとした。(10月21日開催予定)〔資料3参照〕

(人生会議チーム)

- ・ 南区独自の取組として、他都市を参考に携帯できる『私の想い』手帳^{※1}を作成することとし、試行運用に向けて検討を行っている。〔資料4参照〕

※1：メッセージノート別紙を基に、携帯できるサイズで作成するもの。

③地域住民等に対する終末期セミナーの実施

南区内には、6つの地域包括支援センターがあり、毎年2つの包括支援センターを単位とした重点地区と位置づけ、「人生会議セミナー」を実施している。

昨年度は、飽田・天明地域をモデル地域と位置づけし実施した「人生会議セミナー」を、今年度は、幸田・熊本南地域をモデル地域と位置づけ、上半期（4月～9月まで）に計7カ所において、地域住民に対する同セミナーを開催し、合計202名の区民の方にご参加いただいた。

なお、来年度は、富合・城南地域をモデル地域と位置づけし開催を予定。

自身の「人生の最期の迎え方」や「最期の場面での治療の希望」等について、家族と話し合ってもらうことを推奨。市が作成した「メッセージノート」も紹介。

※資料5『令和4年度「人生会議セミナー」アンケート結果報告（上半期）』を参照

また、令和4年7月からは、富合図書館内に「いのちに関わる現場」をテーマにした図書を紹介するコーナーを設けている。



④南区人生会議の日 ～あなたの想いをつなげるために はじめの一步～ の開催

厚生労働省が毎年11月30日を「人生会議の日」としていることにちなみ、昨年（令和3年）11月28日（日）、天明ホールにおいて「第1回南区人生会議の日～あなたの想いをつなげるために はじめの一步～」のイベントを開催し、171名の参加をいただき、うちアンケート回答者（124名）の約9割の方から、自身の「人生最期の迎え方について考える機会となった」との回答を得た。

本年度も同様に、令和4年11月12日（土）に富合ホールにおいて、区民（区内に勤務する方を含む）を対象に「人生会議とは？」、「家族と話し合うことの大切さ」等を知っていただき、熊本市が作成している「メッセージノート」も紹介しながら、参加者にメッセージノートの「私の思い」への記入を体験してもらう予定。

〔資料6・資料7参照〕

また、実務者会議メンバーで作成した携帯できる『私の思い』手帳の同時配布を予定。〔資料4参照〕

⑤介護予防事業の取組

推進方針の取組1「介護予防」の中で、高齢者がいつまでも元気で自らの力を発揮できるまちづくり、「住み慣れた地域で、近隣や仲間と一緒に主体的に健康づくり・介護予防に取り組む機会の充実」を目標に取り組んでいる。コロナ禍で一部の団体で活動を休止していた期間もあったが現在は活動中。

a 令和4年度南区くまもと元気くらぶ活動状況

(15団体)

校区	団体名	登録人数	会場	校区	団体名	登録人数	会場
飽田西	甲畠口元気くらぶ	13人	甲畠老人憩いの家	川尻	野田町友心会	13人	野田団地集会場
飽田東	飽田筋トレクラブ(A)	24人	飽田地域コミュニティセンター	川尻	大渡いきいき元気倶楽部	15人	大渡公民館
飽田南	飽田筋トレクラブ(B)	50人	飽田公民館	川尻	岡町元気クラブ	14人	天理教会
飽田東	フキの花元気くらぶ	15人	デイサービス花スミレ内	川尻	野田町僱友会	26人	大慈善寺
日吉	いきいき元気クラブ三喜会	23人	日吉コミュニティセンター	力合	筋トレくらぶ	15人	力合地域コミュニティセンター
日吉	上之郷元気くらぶ	30人	上ノ郷公民館	力合	元気くらぶ島町	25人	島町公民館
力合西	力合元気クラブ・筋トレ会	14人	薄場町公民館	力合	筋トレくらぶ木曜	10人	力合地域コミュニティセンター
				力合	筋トレくらぶ金曜	14人	力合地域コミュニティセンター

- ・ 熊本市が介護予防に向けて推奨する運動（いきいき百歳体操、筋トレ体操）を週1回以上実施。
- ・ 今年度は、マンネリ化を防止するため、新たな体操（よかばい体操、くまもと笑顔でよかよか体操）の講習会を計画。
- ・ コロナ禍対策として、自宅でも継続して体操に取り組めるよう、「オンラインでの動画配信」を計画。
- ・ コロナ禍で交流ができないため、「オンライン交流会」を計画。

b 地域支え合い型通所サービス（通所型サービスB）実施状況

(2団体)

校区	団体名	登録人数
日吉東	上近見健康カフェ	20人
富合	とみあいば支え合い隊	15人

- ・ 体操、運動等の活動と趣味活動を通じた日中の居場所づくりを目的。
- ・ 週1回以上、3時間以上/回実施。